

農業専門金融機関としての取組み

当会としての取組み

当会は、愛知県域を地盤とする農業専門金融機関として、ＪＡグループにおける「自己改革実践サイクル」の構築と着実な実践を通じて、当会の中核的事業領域である地域農業の持続的発展・成長産業化を実現するため、当会ならではの金融仲介機能の発揮に取り組んでいます。

● 農業法人・担い手等への融資推進

農業融資新規実行額 20億円

農業生産基盤を支える農業法人や農業の担い手等の事業基盤の維持・成長を支えるため、融資による資金供給に取り組んでいます。

事例 (株)アドバンテック・サンスイ×ＪＡ愛知信連

県内において大規模な施設園芸業を営む(株)アドバンテック・サンスイとビジネスマッチングや情報交換を通してリレーションを構築し、運転資金の需要発生時には農業融資による支援を行いました。



(株)アドバンテック・サンスイの新美代表取締役社長と水耕栽培設備

● ビジネスマッチング支援

令和7年度実績

14件

食農ビジネスを支える農業法人・農業の担い手等の販路拡大や農商工連携等を支援するため、県下ＪＡをはじめとするＪＡグループで連携を図りながら、当会取引先等の農産品調達ニーズを捉え、そのニーズに合ったビジネスパートナーを幅広く紹介し、新たなビジネスチャンスの創出に取り組んでいます。

事例 県内養豚農家×大手ラーメンチェーン×他県域信連×ＪＡ愛知信連

県内養豚農家に対して、他県域信連とリレーションのあった大手ラーメンチェーンを紹介し、販路開拓の支援を行いました。

● 農業経営の金融負担軽減に向けた取組み

J Aが融資する一定の条件を満たす農業関係資金を対象に、農業者の金利・保証料の負担を軽減する利子補給事業および保証料助成事業を実施しています。

農業資金の借入れに対する利子補給	2,449件
農業資金の借入れに対する保証料助成	657件

● 経営改善コンサルティング

農業経営を取り巻く様々な課題解決に向け、コンサルティング部門の設置や、経営改善のための専門資格の取得を通じてスキル・ノウハウの底上げに取り組むとともに、J Aや外部専門家等との連携に基づく多様なソリューションの提供を通じて、取引先の経営改善支援に努めています。

- 農業経営アドバイザー資格（日本政策金融公庫主催）保有者72名（令和8年3月末）
- 日本政策金融公庫等、外部機関のソリューションの連携活用に向けた関係強化

● 多様な資金調達手段の提案

農業法人の資金調達手段の一つとして、アグリビジネス投資育成(株)と連携し、「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」等による資本供与を提案しています。



「アグリシードファンド」チラシ

● J Aグループの総合力発揮

J Aグループが総合力を結集し、ワンストップで専門的・総合的な対応を行っていくために、他連合会と共同で「担い手総合相談支援室」を設置し、訪問活動強化や担い手農家の経営改善提案等に取り組んでいます。

ＪＡバンクあいちとしての取組み

当会は、ＪＡグループ愛知の一員として、農業者の所得向上に貢献するため、金融仲介機能以外の面においても、県下ＪＡ支援を通じた各種取組みを行っています。

● 農産物直売所等の利用活性化に向けて

農業者の皆様の所得向上や地産地消の拡大を図るため、より多くの皆様に、県内の農畜産物を販売するＪＡ運営の農産物直売所等をご利用いただけるよう、ＪＡバンクでは、平成29年４月からＪＡが運営する農産物直売所やグリーンセンター（一部対象外の店舗があります。）でのＪＡカード利用代金の割引施策を実施しています。

愛知県内では、72か所（令和８年４月１日現在）の農産物直売所およびグリーンセンターが割引対象店舗となり、令和９年３月末まで、店頭でのお買い物をされたお客さまのＪＡカードご利用時のお買い物代金について、請求時に５％割引します。

令和７年度実績 72か所



ＪＡ直売所割引施策ポスター

● ＪＡバンクあいちの取組みにかかる広報・ＰＲ活動の強化

この地域の農業者や農業に携わる人々が、農業に真摯に向き合う姿を、地域の皆様に広くご理解いただくため、ＰＲ活動を実施しています。

「未来が実る、農業へ。」は、ＪＡバンクあいちが地域農業の未来に向け、農業所得向上と地域農業活性化に取り組む姿勢を表現しています。



ポスター掲載イメージ

● 小学校等への教材本の贈呈

食農教育・環境教育などを基本テーマとした教材本を県内の全小学校等へ贈呈し、教育現場での食農教育を応援しています。

令和7年度は、約8万冊を県内の小学校等974校へ贈呈しました。



磯村代表理事（左）より川原前県教育委員会教育長（右）へ教材本を贈呈

地域金融機関としての取組み

当会としての取組み

● 地域からの資金調達の状況

県下ＪＡや関係諸団体をはじめ、地域の皆様から各種貯金をお預かりしており、令和８年３月末の貯金残高は、７兆１,６７０億円となりました。

● 地域への資金供給の状況

県下ＪＡや関係諸団体をはじめ、地域の暮らしや農業者・事業主の皆様に対する円滑な資金供給に努め、令和８年３月末の貸出金残高は、５,４７６億円となりました。

- 県内農業を営む皆様を金融面から支援させていただくため、県下ＪＡでの対応が難しい農業法人等の農業の担い手向けの各種金融商品を取り扱っています。
- 台風等の自然災害や家畜伝染病により農業経営に甚大な被害を受けた農業者に対する金融面での復旧支援として「ＪＡバンクあいち農業被害支援利子補給事業」を実施しています。

● 地方公共団体への資金協力等

愛知県債の引受金融機関として資金協力を行うとともに、愛知県、名古屋市の収納代理金融機関として税金等の公金収納事務を行っています。

● 名古屋大学との連携協定

当会は令和8年3月に名古屋大学との産学連携協定を締結いたしました。

大学が有する学術的知見と当会が強みとする現場の知見を組み合わせ、農業分野が抱える課題の解決および県内農業の発展に寄与する新たな価値創造を目指してまいります。また、本連携は次世代を担う人材育成の場としても位置付けており、実践的な学びの機会を提供することで、持続可能な農業の発展に貢献してまいります。



杉山名古屋大学総長(左)と磯村代表理事理事長(右)による調印式

● Tongaliプロジェクトへの協賛

当会は令和4年度から、「Tongali※」のサポーター企業として協賛を行っています。

Tongaliのプロジェクトにおける起業支援の対象には、社会に対するイノベーションの創発、地域の活性、グローバル展開を食農系アイデアによって推進しようと志向する大学発ベンチャーが多く存在します。また、これら大学発アイデアは、いち大学に留まらず、新たな価値創出に伴い、公的機関や研究機関等のネットワーク形成に寄与し、東海地区の地域発展を飛躍的に押し進めることが期待されます。

当会においては、Tongaliの取組みについて共感

するところであり、サポーターとして支援をしています。

当会は、今後も大学等との連携を重ねながら地域貢献に資する活動を行っていきます。

※ Tongaliとは、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジするアントレプレナーシップ教育と起業支援活動のため創設された名古屋大学を中心に東海地区の多数の大学に跨るプラットフォームの総称です。



Tongaliアイデアピッチコンテストの様子

ＪＡバンクあいちとしての取組み

● 愛知県警察との「金融犯罪に係る情報提供に関する協定」の締結

愛知県下ＪＡ・ＪＡ愛知信連は、特殊詐欺、ＳＮＳ型投資・ロマンス詐欺等金融犯罪を巡る昨今の深刻な情勢に鑑み、特殊詐欺等の被害拡大防止および迅速な捜査による犯人検挙のため、愛知県警察と「金融犯罪に係る情報提供に関する協定」を締結しました。本協定は、特殊詐欺等の被害や犯罪の関与が疑われる不審な取引を検知した場合に、その情報を共有することで、愛知県下ＪＡ・ＪＡ愛知信連と愛知県警察が連携を強化するものです。

愛知県下ＪＡ・ＪＡ愛知信連は、こうした金融犯

罪への取組みを通じて、組合員をはじめとする利用者の皆様を特殊詐欺等の被害から守り、警察の犯人検挙に協力することにより、地域社会の健全な発展に貢献してまいります。



協定締結式の様子

● 中日ドラゴンズとの公式スポンサー契約締結

ＪＡバンクあいちは、当地で不動の人気を誇るプロ野球チーム「中日ドラゴンズ」の球団創設90周年にあわせて、令和８年２月に公式スポンサー契約を締結しました。

本契約締結に伴い、バンテリンドームナゴヤ内のスポンサーボードや中日ドラゴンズ公式ホームページ等へのＪＡバンクあいちのロゴ掲出、中日ドラゴンズ公式キャラクター「ドアラ」とＪＡバンク公式

キャラクター「よりぞう」のコラボグッズの制作など、若年層を中心とした幅広い世代に対するＪＡバンクあいちの認知拡大に向けて取り組んでいます。

また、今シーズンの開幕前には、中日ドラゴンズの選手の皆様の身体づくりをサポートする取組みとして、愛知県産米「愛ひとつぶ」100kgを贈呈しました。



コラボグッズのイメージ



齋藤前経営管理委員会会長(右)から加藤代表取締役社長
オーナー代行(左)へ愛知県産米「愛ひとつぶ」の贈呈

社会貢献活動

当会は「JAバンクあいち」の一員として、資金供給などの金融機能の提供により、農業の振興や地域社会の発展に貢献するとともに、社会福祉などに対する貢献活動を通じて豊かでゆとりある地域社会の実現に向けた取り組みを行っています。

● 児童養護施設へ愛知県産の果物および新米の寄贈

日本の将来を担う児童の健やかな成長を支援することで児童に食の大切さを伝えるとともに、県内農業の発展に寄与することを目的として、中部善意銀行を通じて県下の全児童養護施設に対し、令和7年7月23日（水）にメロン501玉、令和7年11月18日（火）に新米8トン（全児童の約1か月分の消費量相当）、令和8年2月27日（金）にいちご1,422パックを寄贈しました。

新米の寄贈は、平成23年度から取り組んでおり、これまでに134トンを寄贈しています。また、果物の寄贈は、平成28年度から実施しており、ブ

ドウ、いちご、メロン、ポンカン、スイカ、柿、梨およびみかんを寄贈しています。



柴田代表理事常務(左から2人目)より中部善意銀行岡田理事長(左から3人目)へ目録および新米を贈呈



磯村代表理事理事長(左)より中部善意銀行岡田理事長(右)へ目録およびメロンを贈呈



柴田代表理事常務(左)より中部善意銀行岡田理事長(右)へ目録およびいちごを贈呈

● 東山動植物園いのちつなぐ基金への寄付

地域金融機関である当会における地域活性化の役割発揮に資するため、「生命（いのち）をつなぐ～持続可能な地球環境を次世代に～」という基本理念のもと創設された東山動植物園いのちつなぐ基金（名古屋市東山動植物園基金）に対し、令和7年11月21日（金）に40万円を寄付し、同基金からブロンズパートナー認定を受けました。



東山総合公園山田前公園長(右から1人目)より感謝状を受領する磯村代表理事(左から2人目)と柴田代表理事常務(左から1人目)

● 農業高等学校への農機具の寄贈

愛知県下の農業者の高齢化・減少に伴い農業の担い手が不足するなか、担い手の育成を支援するとともに、県内農業の発展に寄与することを目的として、令和7年12月18日（木）に、佐屋高等学校へ畔草刈り機・刈払機+アタッチメント・管理機用アタッチメント2種を、渥美農業高等学校へ自走式キャリー動噴・アルミブリッジを寄贈しました。この活動は、愛知県下の農業高等学校9校を対象に、平成30年度から実施しています。



齋藤前経営管理委員会会長(左から1人目)より佐屋高等学校平井校長(右から2人目)および渥美農業高等学校神谷校長(右から1人目)へ目録を贈呈

● 団体献血の実施

地域社会の一員として地域医療に貢献するため、令和7年9月2日(火)にJ A あいちビルにおいて、愛知県赤十字血液センターの協力のもと、団体献血を実施し、76名の役職員が参加しました。

この活動は、平成18年度から取り組んでおり、これまでに22回、延べ1,904名の役職員が献血しました。



団体献血当日の様子

● 使用済切手の寄贈

使用済切手を、県下の社会福祉の向上に役立てていただくため、「使用済切手保管箱」を全部署へ設置し、収集した使用済切手を中部善意銀行へ寄贈しています。

この活動は、平成18年度から取り組んでおり、これまでに約22kgを寄贈しています。



「使用済切手保管箱」と収集した使用済切手

● フードバンクへの食品の寄贈

地域社会の一員として、食品ロスを削減する環境的側面と生活困窮者を支援する福祉的側面を持つフードバンクの活動を、令和2年度から実施しています。

今年から、寄贈先であるセカンドハーベスト名古屋と株式会社バローホールディングスと提携することとなり、令和8年3月19日(木)にセカンドハーベスト名古屋において提携式を実施しました。



株式会社バローホールディングス秋元サステナビリティ推進室長(左から1人目)、セカンドハーベスト名古屋田村氏(左から2人目)、村上総務部長(右から2人目)、セカンドハーベスト名古屋松岡理事長(右から1人目)